

CILとちぎ通信

第27号 令和 元年5月16日発行



2019.3.30 ドキュメンタリー映画「道草」試写会&トークショー

- | | | | |
|---------------------------------|---|------------------------------------|----|
| ・「障害者の人権/障害者権利条約」 を講演してきました | 2 | ・映画「道草」試写会&トークショー 参加者からのアンケート感想 | 6 |
| ・栃木障がいフォーラム平成30 年度研修会に参加しました | 2 | ・渡辺一史さんの講演を聞いて | 11 |
| ・会員様よりご寄付頂きました | 3 | ・心のお母さんとラ*ラ*ランチ | 13 |
| ・「あたらしいほうりつの本」購入 しました! | 4 | ・みんながけっぷちラジオに 出演しました! | 14 |
| ・ドキュメンタリー映画「道草」 &トークショー | 4 | ・平成から令和へ ~静かに過ごして~ | 15 |
| ・映画「道草」感想 | 6 | ・イオンのイエローレシート | 16 |

とくていひえいりかつどうほうじん じりつせいかつ
特定非営利活動法人 自立生活センターとちぎ

とちぎけんうつのみやししもぐりまち
〒321-0923 栃木県宇都宮市下栗町2947-8 イースタンピュア 103

でんわ
電話・FAX : 028-638-2538 E-mail : ciltchigi@silver.plala.or.jp

URL: <https://www.ciltchigi.org/>

リニューアル!

「障害者の人権 ～障害者権利条約～」を講演してきました

さいとう やすお
齋藤 康雄

2月27日、栃木県教育委員会河内・上都賀地区人権担当者連絡協議会兼研修会に於いて講演をして参りました。障害者権利条約に於ける障害の捉え方、医療モデルから社会モデルへ、条約を踏まえ、障害者への差別の禁止を具体的にした障害者差別禁止法の説明をさせて頂きました。また、障害のお子さんが通常学校で共に学ぶインクルーシブ教育についてもお話をさせて頂きました。



栃木障がいフォーラム平成30年度研修会に参加しました

さいとう やすお
齋藤 康雄

3月19日（火）福祉プラザ多目的ホールにて栃木障がいフォーラム（TDF）平成30年度研修会が行われました。車椅子参加者12名、視覚障害10名、聴覚障害8名、肢体不自由者12名、その他合わせて総勢130名の方が参加されました。

第1部では、日本障害フォーラム代表 阿部一彦様より、「障害者権利条約とパラレルレポートについて」講演頂き、障害者権利条約の

締結する前に、国内法を条約に合わせるようにしたこと。また、権利条約に書かれている事など分かりやすく説明されました。その中で、障害当事者が、このようにして欲しいなどと伝える力をつけてもらいたい。また、パラリンピックを契機に「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を進める中で、各地域の障害者団体が国の動きを、地域に繋げて行ってもらいたいと話されていました。

第2部では、障害者就労についてのパネルディスカッションで、栃木県での就労について現状が報告されました。各障害について違いがありますが、ベースに生活の安定があり、企業側には、個々の状況に対応して、企業の見学、実習の事前準備が重要との意見が出されました。

また、人間関係で退職される方が殆どで、悩みが小さいうちに相談されることが大切であるとのこと。これは、障害の有る無しに関係無いことだと思いました。



会員様よりご寄付を頂きました☆

いつもイベント等に参加して下さる方より『いつも私たちが障がい者の為に色々ありがとうございます。』と匿名希望でご寄付(一万円)を頂きました。

ありがとうございます！



「あたらしいほうりつの本」 購入しました！

お世話になっている「手をつなぐ育成会」さんから、購入させて頂きました。福祉サービスなど、福祉の事がとても分かりやすい書籍です。2冊あると、より分かりやすいです。



ドキュメンタリー映画「道草」試写会&トークショー

齋藤 康雄

3月30日 ドキュメンタリー
映画「道草」試写会&トークショー
をパルティ男女共同参画センター
にて開催致しました！！

各障害者団体や関係機関等を
中心に案内させて頂きスタッフを
いれて70名以上の方にご参加頂

きました。上映会ではバリアフリー字幕や希望者には視覚障害のある方
でも映画を楽しめるツールとして音声ガイドを準備して上映致しました。

「道草」上映後に、岡部耕典さん(教授でありながら、出演されている
息子さんの父)と末永弘さん(支援者)とのトークショーが行われました。





おかべ しんたいしょうがい じりつ
岡部さんからは、「身体障害の自立
せいかつうんどう かか なか むすこ
生活運動に関わる中で、息子もこの
よなせいかつ りそう おも
ような生活が理想ではないと思い、
ちい ころ つか し
小さい頃からヘルパーを使い、知っ
ているヘルパーさんがいたので、家
から出るのもスムーズだったように
おも ほんにん かいじょ にん
思う。また、本人の介助は、10人ぐ

らいいるが、10人が息子を見ているというよりは、本人が10人を使い分
けしているというのが正しいのか？」と話がありました。参加者の親御さ
んからは、ヘルパーさんが途切れなく入ってくれるのかという質問があ
り、岡部さんが「施設に文句を言うわけでないが、どんな大企業でも倒産す
る時代であり、箱物に安心感があるのではないのでしょうか？箱物ではな
く、支援する人ではないのでしょうか？箱物は、ベールに隠れているの
ではないか。」と説明されました。

また、しょうがい そうきりょういく しつもん で りょういく ひてい こと
障害への早期療育について質問も出て、「療育を否定する事では
ないが、それもいがかくてき かんが せいかつ ちから い ほう
医学的な考えで、生活に力を入れた方がいいのではな
いか。障害は治らないのだから。」

と岡部さんが返答していました。

みちくさ ししゃかい
「道草」試写会&トークショーと
ても良かったです。

ぜ ひ おお えいがかい おこ いっ
是非、多くの映画会を行なって一
ばんじょうえい ほ
般上映されて欲しいです。



しゅさい ぜんこくじりつせいかつ きょうぎかい
主催：全国自立生活センター協議会

きょうさい じりつせいかつ
共催：自立生活センターとちぎ

じょせい こうえきざいだんほうじん ふくしざいだん
助成：公益財団法人キリン福祉財団

えいが みちくさ かんそう 映画「道草」感想

うつのみやだいがく ちいき か みやさかまや
宇都宮大学 地域デザイン科 宮坂真耶

じりつせいかつ かんが かた しょうがい かた せいかつ あ いろいろ
自立生活の考え方は、障害のある方の生活に合わせて、色々なことを
じゅうなん おこな きつ
柔軟に行えるのだと気付きました。

なか で、とうじしゃ かいじょしゃ 「はあ」とため息をつきたくなる時もみら
れましたが、おだやかにわら あ しゅんかん
笑い合う瞬間もありました。

そうしてだんだんとお互いのたが かんけい
関係ができてきて、ともにちいき と だ
地域に飛び出してみると、まわ ちいき かたがた にんしき か
周りの地域の方々の認識も変わって、できないとおも
われていたことができるようになるのかなとおも
いました。



ゲストの方のかた はなし
お話にもあ
りましたが、このえいが ひろ
まることが、しょうがい かた
障害のある方に
とってじりつせいかつ せんたくし
自立生活という選択肢
があ まえ
が当たり前になればいいな、
とおも
と思いました。



みやさか とうじつ すば しかい
*宮坂さんは当日、素晴らしい司会をしてくださいました！
どうも、ありがとうございました(^ ▽ ^) /

えいが みちくさ ししゃかい さんかしゃ かんそう 映画「道草」試写会 & トークショー参加者からのアンケート感想

ふくしじゅうじしゃ しょしん
・福祉従事者でありながら、初心にかえることができました。ありが
うございました。またあした はげ
明日から励んでいこうとおも
います。

いろいろ じゅうどしょうがいしゃ せいかつ かんが ようじ
・色々と重度障害者の生活について考えさせられました。幼児・

がくれいき そだ かた おとな しゅうい かか じりつ
学齢期の育ちのあり方、大人になってからの周囲の関わり、自立とは…。

おお かた み えいが
多くの方に観てもらいたい映画でした。

かいごしゃ ひとり かた い しょうがい も ひと い
・介護者の一人の方が言っていた「こういった障害を持った人が生きる
いみ がきつとある」という一言。正解はないかもしれないが、自分も考え
てみたいし、あってほしい。

もんだいこうどう むすこ けん なや むすこ かたち
・問題行動のある息子の件で悩んでいました。うちの息子もああいう形
しえん ほんとう しあわ おも わたし おも えが
で支援していただければ本当に幸せだなと思いました。私の思い描いて
いた理想の形です。今日、来てよかったです。

とうじしゃ かぞく ささ ひとたち ひび み よ おも
・当事者と家族、そして支える人達の日々が見られて良かったと思う。
ふだん せいかつ かか し あ ささ がわ しせつ はたら
普段の生活では関わりがないが、知り合いが支える側（施設）で働いてお
り、理解にもつながった。地域で暮らすということ、家族の考え方、支え
る側の考え方、大変さもあるが、共にいることで気付くこと（楽しいとい
うこと含め）があるのだと初めてわかった。

・こんなにも重度で行動に問題のある人が1人暮らしができる（させて
もらえる環境がある）ということに驚きと感動がありました。これが当
たり前になって欲しいと願う私にはとても刺激的でした。また、今まで良
かれと思っている教育、家庭生活、施設での暮らしが、本当は子どもに
とって真意ではなく、ガマンの積み重ねであることもあり、それがこうし
て大人になってバクハツしたり、二次障害となつてあらわれてくると改
めて感じました。今の我が子の支援も見直そうと思いました。今の宇都宮
市は、ヘルパー利用の制限があり、正直使いにくいし、ビクビクしながら

事業所も関わってくださるようなことが多く、このような形での支援は望めないとお思います。でも、この形がやっぱり大切なんだ、家族以外の場、人とも関わりの機会が当たり前前に利用できる体制を整えて欲しいとお思います。トークも良かったです！今日のこの機会をありがとうございました。

・子どもそれぞれ違うとお思います、所々で同じ行動をしたりする時があり少しでも役に立ちました。子どもたちの方が長い人生、出来ることはやらせてあげたいとお思いました。

・重度の知的障害があっても地域で生活ができる！！皆の表情が変わっていく。感動しました。それを支援する方たちも楽しそうに見えました。施設、病院の選択だけでなく「地域で」が早く、当たり前になって欲しいです。

・それぞれの障害のある方の暮らしが理解しやすかった。利用者、介護者のやり取りの様子が勉強になった。このような映画をもっと作って欲しい。

・強度行動障害のある人たちの支援について、非常に考えさせられた。地域で暮らすこと、日常支援の継続についての保障が一生続くのか心配。栃木でこのような自立生活が可能なのだろうか。法律的には制度ができたので可能なはずだが…。本日はありがとうございました。

・まず驚きました。重度の知的障害と自閉症があっても自立して生活している方がいるなんて！！私の息子も、重い知的障害と自閉症があり

・重い障害を持ちながらも自立して地域で暮らしていく姿に心打たれました。重い障害を持っている人がいる事は、本当に意味のある事だと思いました。

・一人一人に対して向き合える人、人材があれば、重度障害でも本人の時間が持てるんだな…と思いました。親だけでなく、他人との関わりが大事で大切と思いました。

・栃木県では、まだまだ実現が遠い遠いように思います。でも、第一歩から始める事で先に進むかな…。試写会、ありがとうございました。

・岡部さん、末永さんのお話を、もっと長く聞きたかった。ありがとうございました。

・すごいと思いました。現在、特別支援学校小学部の3年生になる乙女（自閉症と重度知的障害）を育てています。日々、とても、親として選ばれ（子供としても選び）大変な生活を送っています。未来は、こんなふう
に支援を受けながら、人生を歩んでもらえたら嬉しいです。ちなみにラインブログでこの子の日々の生活を書いています。

・当事者が自立して外へ踏み込むことで変わることを知りました。保護者から、当事者が伝えたことを応えてくれることは、良かったというコメントには、改めて関わり方を省みるようでした。ありがとうございます。

えいが あと えいが みかた らか
・映画の後トークショウがあり、映画の見方、深まりができました
(ワークショップもあるといいかも)。しょうがい こ かか しごと
障害のある子に関わる仕事をして
いるのですが、しょうらい む なに ちから
将来に向けて何をどんな力をつけてあげたらよいか悩む
日々です。のう つか かた してん か
脳の使い方を視点を变えて…というか見方を変えるチャンスに
なりました。ありがとうございました。

おや な あと きょうだいじ おも かんが し
・親亡き後、兄弟児の思いや考えも知りたくなりました。ほんじつ きちよう
今日は貴重な
えいぞう
映像をありがとうございました。



みな かんそう
皆さん感想ありがとうございました！

わたなべかずみ こうえん き 渡辺一史さんの講演を聞いて

ながた げんじ
永田 元司

がつ にち いばらきけん し
3月31日、茨城県つくば市のC I L「ほにやら」が開催した渡辺一史
さんの講演会を聞いてきた。わたなべ さくねんこうかい えいが
渡辺さんは昨年公開された映画「こんな夜更け
にバナナかよ」の原作を書かれた方で、「なぜ人と人は支え合うのか」と
げんさく か かた ひと ひと ささ あ
いう近著もあり、講演会のタイトルも「なぜ人と人は支え合うのか」で
きんちょ こうえんかい ひと ひと ささ あ
あった。

えいが きん しかの かれ せいかつ ささ ひとひと かか
映画は筋ジスの鹿野さんと彼の生活を支えるボランティアの人々との関
わりを描いたもので、えが み ひと わら
見た人を笑わせながらいろいろ考えずにはいられない
さくひん もと ものがたりせい
作品になっていた。ノンフィクションを元にしながら物語性もあり、こ

の手のものにありがちな無理に感動を煽るようなつくりになっていないのも良かった。この映画の背景や裏話も聞けるかなと思って、聞きに行くことにした。

渡辺さんは私と年代で、鹿野さんとは亡くなるまでの2年4か月の付き合いであったそうである。約30年くらい前で今のような福祉制度も整っていない時代に、筋ジムの鹿野さんはボランティアを使いながら札幌で一人暮らしをしていた。渡辺さんは取材者として、またボランティアとして鹿野さんと関わり、いくつもの印象的な体験をして、鹿野さんや鹿野ボラの方々と親しくなっていたという。そして鹿野さんの強烈な個性だけでなく、介助をする側と受ける側という一方的な関係性だけでなく、共に頼り頼られるような交流が元になって本にならなっていたそうである。

そして講演の中では相模原の事件にも触れながら、「障害者は生きている価値があるのか」というような普通の人は考えたことはあってもなかなか口にしない素朴でデリカシーのない質問にどう答えるか、それぞれに考える時間が設けられた。私も考えたし渡辺さんの答えも聞かせてもらったが、どれが正解ということではなく、誰もがこうした問いに逃げることなく、しっかりとした意見を持つことが重要だということであった。でなければあの犯人をヒーロー扱いする一部の風潮に対抗することができなくなるだろう。そんなことを考えることができたので、つくばまで行った甲斐はあったなと思えた。

講演とは関係ないが、「バナナかよ」の映画を見て一番ビックリしたのは、鹿野さんの住んでいた家に見覚えがあったことである。すっかり忘れていたが、映像で玄関や



室内、周辺の様子などを見て20年以上前のことを思い出した。札幌いちご会を視察させてもらったときに、いちご会の働きかけでできたケア付き公営住宅として部屋を見学させてもらった。あまり記憶に残っていないのだが、今になっていろいろ調べ直すと、あの部屋に住んでいたのは鹿野さんだったようである。鹿野さんがまだ人工呼吸器を使う前で、いくつか質問もさせてもらったりもした。このような生活ができるのかと驚き、羨ましさも感じたのを憶えている。今回映画を見て、環境の良さだけでなく、本人の強い意志があって成り立っていたのだと知った。

そのときは滅多に来ないというお母様もいらした記憶がある。渡辺さんによると、鹿野さんからお母様への実際の手紙が映画版よりも感動的でそのまま使って欲しかったという。これを機に原作の方も読んでみたいと思う。

心のお母さんとラ*ラ*ランチ

しば ひろみ
柴 洋美

私には、心のお母さんと思っている人がいる。その心のお母さんと4月21日日曜日に念願かなってランチとカフェ☕をしました。

JR宇都宮駅西口で、待ち合わせして、お昼に餃子を食べ、その後、カフェでコーヒー☕を飲みながら、おしゃべりをしました。

心のお母さんは、車椅子利用者の身体障害者で、はるばる私のためにバスに乗って、会いに来てくれました。私は、その事がとても嬉しかった。



こころ かあ
心のお母さんは、ヘルパーさんと、ヘルパーさん見習いの2人を介助者
にしていました。

わたし まじ にん たの
私を交えて、4人で楽しくおしゃべりができました。ヘルパーさん見習
いの方は、私の心のお母さんの人柄に、ひかれていますと言っていて、私
のほうが、鼻がタカダカになってしまいました。

みなら かた わか かた
ヘルパーさん見習いの方は、若い方なのに、アルバイトに介助者の仕事
を選んでくれて、私は勝手に感謝しました。

つき あ やくそく で き
次の会う約束は出来ませんでした。今度
わたし こころ かあ いえ あそ い
は私が、心のお母さんの家^いに遊びに行く
ことになりました。



みじか し かん たの
短い時間でしたが、楽しいラ*ラ*ランチでした。

みんながけっぷちラジオに出演しました！

ながた げんじ
永田 元司

うつのみや
宇都宮のコミュニティFM「ミヤラジ」の番組「みんながけっぷちラジ
オ」に出演しました。

がけ ひとり
崖っぷちにいる一人として、また崖っぷちにいる人の手助けができれば
という思いで、障害を負ったときや自立生活センターのことを話してきま
した。



きんちょう
緊張もしましたが、ラジオ
局のスタジオが見られて面白
かったです。



平成から令和へ～静かに過ごして～

しば ひろみ
柴 洋美

2019年のゴールデンウィークは、平成から令和に元号が変わる特別な長い休日となった。

休日期間中は、友人とボーリングに行ったり、別の友人が自宅に遊びに来てくれたりしたが、特別な事は何もなかった。

平成31年4月30日は雨だった。私は雨が降ってくれて嬉しかった。雨が平成の時代を締めくくってくれたような気がしました。

平成の時代は災害がとても多い時代だと思いました。

令和になっても、まだまだ災害の被害者の方々は苦しんでいらっしゃいます。令和の時代も災害がいつおこるか油断出来ず、災害からの準備を備えて置くようにと、ニュースなどで流れていました。私自身は、何も準備をしていないので、少し心配です。

その中で、令和になって新しい皇后陛下雅子さまの笑顔テレビで見ても安心し、幸せな気持ちになりました。

ある日、適応障害と診断されて、公務を控えていらっしゃいましたが、上皇后陛下美智子さまから、公務のお仕事を引き続きされるようになってから、少しずつ、元気が戻っていらしてきたのかなと、感じました。

そして、友人からもらった手紙を思いだし、『毎日、普通に生活出来ることが幸せ』だと、書いてあり、私も、そうだなと思いました。

そして、『平成から令和』へと、静かに過ごせることが幸せだと感じました。



イオンのイエローレシート

ながた げんじ
永田 元司

自立生活センターとちぎではイオン小山店のイエローレシートキャンペーンに団体登録しています。買い物をしたお客さんから頂いたイエローレシートの金額の1%分をイオンからギフトカードとして寄付していただけることになっています。

先日、その贈呈式がありましたので行ってきました。登録している約200団体が店長さんから壇上で次々にギフトカードをいただいた後、今回は我々がスピーチをする順番だったので、日頃の活動やギフトカードの使い方などを発表し、お礼の言葉を述べてきました。

CILとちぎではいただいたギフトカードを交流会やバーベキュー、クリスマス会などに使う器具や飲食物に使わせてもらっています。そのおかげでイベントの参加費を安く設定できていると思っています。

毎月1日は「幸せの黄色いレシート」の日です。イオン小山店でお買物をされたときにはぜひ当団体へ。他店で買い物したときにも、応援したい団体を見つけて投函してみてください。



き かん し こうどく かい いん ぼし ゆう ちゅう 機関誌購読会員募集中

自立生活センターとちぎの機関誌（年3回発行）の購読をしてくれる

会員を募集しています。会員として登録してくれた方には、CILとち

ぎの様々なイベントのご案内もいたします。年会費 300円